

学校 レポーターズ コラム

社会人の兆しを感じて

川根高等学校3年 植田 淳也



▼編集後記

この町は古くから茶業がさかんで、川根茶は人々の暮らしに深くなじんできました。昭和30年頃のことを知る人に話を聞いてみました。「昭和30年代と言えば手摘み全盛の時代でした。新茶が芽吹く時期は、一年中で一番忙しく、そして活気にあふれた季節でした。仕事は単調で長時間にわたり、きつい仕事だったように思います。でも新緑の中で会話が弾み、笑顔があふれ楽しそうだと、子ども心に思ったものです」。

現代の茶業は機械化が進み、昔に比べて生産性は格段に向上しました。しかし生産性や利益を追求するあまり、一番大事な部分を見失ってしまった感じがします。茶農家さんなら今年も収穫することができ喜び、わたしたちなら味わうことができる喜び。そんな「喜び」が「誇り」を生み、川根茶の発展を支えてきたのではないのでしょうか。

表紙写真は、昭和15年頃の茶摘みの様子です。お茶摘みさんの笑顔からは「収穫できる喜び」が満ちあふれているように見えます。この笑顔は今に受け継がれ、そして未来へと伝えていかなければなりません。この町に生きるすべての人が、その役割を担っていると思います。一人一人が川根茶との関わり方を考えていくことが、この町の未来を開くことにつながります。

小笠原聡

受験生を励ます「受験激励会」の様子



「内定決まったあ！良かったあ！」そう言ったのが、9月の終わり頃でした。中部電力株式会社の入社試験を受けて、内定通知書ももらいました。こういうすばらしい結果になったのも、すべて充実した高校生活のおかげでした。

わたしのこれまでの高校生活は、勉強にしても部活動にしても、とても意味のあるものでした。2年生の後期からは、先輩たちから学校のリーダーとなる「バトン」を渡されました。わたしはクラスの評議委員、野球部のキャプテンとして生活を送るようになりました。そこでわたしは、責任感と「一人では生きていくことができない」ということを学びました。

部活動やクラスのリーダーは、チーム・クラスを引っ張っていくかなければならない存在です。リーダーである自分が率先

して動き、指示しなければいけません。他の人たちはリーダーを見て行動します。わたしは「自分から」ということを心がけてきました。例えば、集会のときには誰よりも早く来て、自分のクラス以外の人たちにも早く並ぶよう指示を出しました。そして、今のわたしの役目は次の川高のリーダーとなる2年生に「バトン」を渡すことだと思っています。それが最後までやり通す「責任感」だと思います。

多くの人の支えや助けがあったからこそ、先輩も多くの地元の中部電力の内定をもらうことができました。家族、友人、先生がいたからこそ、自分が今こうしていられます。これからも成長することができそうです。ですから、今後も「義理、人情」を大切にして、一生忘れないようにしていきたいと思っています。